

《基調講演概要》

【第1部：基調講演②】

「リニアを見据えた飯田市のまちづくり」

講師：佐藤 健 飯田市副市長

- 基本計画が決定されたのは昭和48年、事業計画が決定されたのが平成23年と38年かかった。2027年までに品川・名古屋間を結ぶ計画になっており、これが結ばれると東京・名古屋間が40分となる。その中で、各駅停車に当たるものが飯田市にも止まり、飯田・品川間は45分、飯田・名古屋間は25分。リニアが東京から大阪まで結ばれますと、67分という計画になる。
- 経済波及効果も大きいということで、リニアの建設工事の投資だけで9,991億円と言われている。リニア利用者による県内消費は開業年では336億円の経済効果、また交流人口が大幅に拡大することも期待される。
- リニアがもたらすチャンスがある中、一方で脅威もあり、逆ストロー現象で吸い取られるのではないかというマイナス面の心配もある。
- 人と情報の往来が激しくなるので、埋没しないような地域ブランドを作る、あるいはそれを発信するといったことが必要なため、今ある地域資源をしっかりと磨いて他との差別化を図っていくブランド戦略が必要。
- 時間距離としては都会の一部になるということで、日々の暮らしのコミュニティ、近所づきあい、伝統文化といったものや豊かな自然環境は飯田市の特徴なので失わないように守っていききたい。また、自分や地域に対する愛着や誇りをなくならないように、主体的な地域づくりといった姿勢がなくならないように、守るべきものはしっかり守っていく。
- 東京から名古屋まで一気に行けるのに、途中の飯田に降りる必要があるのかといったことに対して、応えられるだけの付加価値や魅力をこの10年間の間に準備できるかどうか、我々飯田市にとっての一番大きな課題。
- 飯田市には文化・歴史といったものが色濃く残っているので、地域に息づく文化・歴史と高度な都市空間、文明とが融合するような場所になりたい。また、他の学術研究都市とは異なる田園型として豊かな人間らしく暮らしながら世界を相手にする、そんな学術研究都市を作りたい。その先導的なプロジェクトとして航空宇宙産業をしっかり推進していこうというのが飯田市のプランです。
- 非常に息の長い取り組みになることを認識しながら、息切れしないようにしっかり取り組んでいかなければならない。それから当然その事業が地域にもたらす意義、それを受け止めるために、事業がもたらす意味を考え、備えていく必要がある。